

慈雲

4号

2007/03

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

[zuirenji@nifty.com](mailto:zuirenji@nifty.com)

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



我 如  
聞 是

【表紙の言葉】

どの經典も「如是我聞」  
から始まります。

「是の如き 我れ聞きたまいき」と読み、「このように私は聞きました」という意味です。

聞こえたところが信心です。

私はこのように釈尊の説教を聞いて、今までにない喜びと生き甲斐を得ることができました。それを皆に伝えたい。

その「私」とは仏弟子の阿難です。

## 【観經に学ぶ】その二

「如是我聞 一時佛 在王舎城」という文で『観經』は始まります。今月号の表紙でお話しましたように「如是我聞」の「聞」は阿難が聞いたのです。しかし『観經』の「如是我聞」は他の經典のそれとは違って私の胸を打ちます。なぜなら阿難は『観經』を聞くとき、仏弟子という立場でなくひとりの凡夫としてお釈迦さまの教えを聞いたからです。

もうひとり『観經』には韋提希夫人という王妃がお釈迦様の説法の対告衆（相手）です。阿難はこの韋提希夫人と共にお釈迦様から「凡夫が救われる教え」を聞いたのです。そしてこれまで感じたことのない喜びを得ることができたのです。いいかえると阿難の喜びが詰まっている「如是我聞」だからです。

『観經』は特別な經典です。お釈迦

様が耆闍崛山で『法華經』をお説きになつていた時、王舎城で悲劇が起きました。王子の阿闍世が父である王の頻婆娑羅を七重の室に閉じ込めたのです。そして韋提希夫人は王の為にこつそりと食べ物を選んでいました。王と王妃はかねてからお釈迦様のもとへ通い説法を聞き、また或る時はお釈迦様を王宮へ招いて教えを聞いていました。この時夫人はわが子の起こした逆悪にあつて幽閉されている王のもとへ気丈に食べ物や飲み物を届けていましたが、心は不安と恐れでいっぱいでした。その韋提希夫人の気持ちを探したお釈迦様はただちに『法華經』の説法を中座され、王宮の夫人のもとへ走つていかれるのです。そのときに阿難もお供していきました。悲しみに沈む韋提希夫人に対してお釈迦様はしずかに教えを説き始められます。阿難は夫人と共にその教えを聞いておりました。お釈迦様は夫人に向かってお話になるのです。が、時々阿難に対して「よいかな阿難、

夫人に話すことはお前もよく受け取つて未来の衆生の為に伝えなさい」といわれます。阿難はまさしく『観經』のもう一人の聞き手です。阿難はそこで聞いたお説教を再び耆闍崛山に帰ってからそこで待つていた大勢の仏弟子に話して聞かせるのです。大切な經典である『法華經』の会座を中断してまで走つていかれたお釈迦様を何事かといぶかつていた仏弟子たちは阿難から王舎城でのお釈迦様の説法を聞いてとても喜びお釈迦様に礼を為すのです。ですから『観經』は一經二座の經典といわれます。

仏法は「聞いた者」から始まります。教えを聞いて人生に光と喜びを見出した者からまた次に伝わります。王舎城の悲劇は三千年前にインドで起きた出来事ですが、阿難が喜んだ喜びは単に阿難一人のものではなく、未来の衆生である私たち一人ひとりの喜びでもあるのです。

## 【おたより】

院主さんと一献

藤井 聲舟

先日、院主さんと一献お付き合いますことがありました。

元々お酒はあまり強い方ではありませんが、酒の味がさっぱりわかりません。特にウイスキーなど、どれも同じ味位に思っていました。同じ檀家のNさんの勧めで試飲してみたところ、それぞれかなり個性と味わいがありまして、スコッチウイスキーの奥の深さを初めて知りました。

そんなことでお酒が進むにつれて話が弾み宗教談義になりました。

いろんな宗教や宗派がありますが、その特徴に二つの形があり、直感を主にするものと感情を主にするものがあるようです。

コンピューター関係のお仕事をされ

ているNさんに、IT分野ではどちらを優先するのですかと尋ねましたところ、

「私は宗教のことはあまり解らないが」と前置きされてIT産業の世界では、まず基礎的知識が必要です。作られたマニュアルに頼っていますと、ある程度は出来ても基礎的知識がないため発想ができない。IT産業では常に新たな発想が重要です。発想は自己の直感に拠るものです。ただどんな素晴らしい発想でも社会に受け入れられなくては全く無意味です。そこに人々の感性や感情があります。

要するにどちらも必要なものです。

聞いた話ですが、或る作家が「その時代の大衆に受け入れられないものは文化にならない」とのことです。

つつい時間忘れ少々飲み過ぎましたかな。



お磨きに参加して

奥井 好昭

慈雲会の発足以来お寺の本堂に参りまして仏具のお磨きに参加させて頂いています。

仏教のことにはまだまだ不勉強な者ですが一つ一つ磨くという事を通して汚れの下から輝いてくる光にふとせつと物でも人でも磨かんといかんなあーと思うのです。

このお磨きに参加して下さる方もだんだん増えて来ました。皆様一層お磨きに力が入ります。

年五回 春のお彼岸・お盆・秋のお彼岸・報恩講・お正月のそれぞれ前にお磨きが行われています。

どうぞ皆様もお出でになりませんかこの忙しい世の中に一時の安らぎを感じる時間を持つ事が出来ました。

## 【お知らせ】

### お磨きのご案内

三月 十九日(月) 午前九時より  
八月 二日(木) 午前八時半より  
九月 十八日(火) 午前九時より  
十一月 七日(水) 午前九時より  
十二月二十一日(金) 午前九時より  
本堂の仏具のお磨きをいたします。



### お彼岸のご案内

三月二十一日(祝) 午後二時より  
九月二十三日(祝) 午後二時より  
お彼岸のお勤めをいたします。

## 報恩講のご案内

十一月 十一日(日) 午後二時より  
報恩講のお勤めをいたします。  
あわせて前住職の三回忌法要を勤めます。

年末にお配りしましたカレンダーの行事日程欄に報恩講の日が印刷されておりませんが、各御家庭で御記入下さい。

## 【ご連絡】

昨年、報恩講併前住職一周忌法要の時に鳥根県浜田市出身の大谷大学名誉教授幡谷明先生に法話「大悲心に生きる」を講演していただきました。先生の講演をもう一度聴きたいと希望がありましたので今回會員の皆様へCDとしてお届けさせて頂きました。このCDは音楽CDとしてCDラジカセ等にて再生して頂きますと先生の法話が流れてまいります。

慈雲会の年会費の払い込みに付きまして皆様にお願ひがあります。

直接会費をお支払いして頂きます場合今まで通りですが、お振込でお支払いして頂く場合、お振込を同封の振込用紙にてお振込頂きますか振込用紙記載の口座へお振込下さい。

會員の皆様には御負担をお掛けいたしますが、振込料は振込人もちにてお振込して頂きますようお願いいたします。振込料は郵便局にて現金でお振込していただきますと二百十円必要です。キャッシュカード等にてATMで振り込んで頂きますと百二十円です。

## 【編集後記】

母方の祖父の生家がお寺だったこともあつてか、祖母はとても信心深い人でした。母も子供の頃から寒になると太鼓を手に町中を拜んで回ったといひます。

朝に夕に仏壇の前に座りお経を上げていた母が平成十二年三月突然心不全で亡くなりました。生前「死んだらたくさんお経をあげてな」と言っていました。

その年の秋、「ご住職から「お経の勉強をしませんか」とお誘いを受けました。月に一回ご住職の先導で、求道会の仲間の人達とご一緒にお経をあげられ、納骨室で眠っている母もさぞかし満足しているだろうと思つていきます。

今、『観無量寿経』という經典の勉強も終わりに近づいています。ふだん聞き慣れないことはもご住職が丁寧に説明してくださり、少しずつ分かってきました。毎回コピーをしていただいた資料も一冊の本になりそうです。何度も読み返し、自分のものになりたいと思ひます。

今日も出勤前の二人の娘が、あわただしい中、仏壇にお線香をあげ、手を合わせて出かけて行きました。

玉垣 和子